

肥後医育振興会に期待する

あるべき熊本の医学・医療に向けて



熊本大学医学部附属病院長 谷原 秀信

公益財団法人肥後医育振興会におかれましては、設立以来二十年以上の長きにわたって、熊本の医学教育・研究に対するご支援、地域医療の向上にご尽力を賜ってまいりましたことを深く感謝申し上げます。

私は、平成三十一年度より、三年間の任期にわたって、病院の管理運営という重責を担うことになりました。そこで病院長として、肥後医育振興会の皆様へご挨拶を申し上げます。

本院の理念は、「本院は、患者様本位の医療の実践、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する」というものです。患者様本位の医療にとつて大前提となる基盤は、患者様の安全安心を第一とする高度な医療安全管理体制であると考えております。その前提を踏まえた上で、本院は、熊本県で唯一の特定機能病院であり、唯一の医育機関として、重要な役割を地域で担ってきました。本院が、優れた医療人を育成し、輩出してきた長い伝統を有することは、肥後医育振興会の皆様がよくご存知の通りです。

本院は、地域医療において、「最後の砦」としてきわめて重要な存在であると考えております。さらに優れた医育機関であると同時に、世界に向けた新しい情報発信できる「次世代医療・先進医療の揺籃」となり、世界へ羽搏く医療人、医学研究者を育成する「グローバル人材の育成拠点」でありたいと願います。

熊本の地域医療は、平成二十八年熊本地震の被災により、大きな被害を受け、疲弊した状態であることは、広く知られたことではあります。熊本を直撃して、深刻な傷痕を残した熊本地震によって、お亡くなりなられた皆様に哀悼の意を捧げ、心からご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また被災された皆様には、お見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復旧・復興を祈念致します。一瞬のうちに、大切な家

屋が倒壊し、ご家族、ご友人を喪失された悲しみ、被災後の長期に及ぶ避難生活の不安と辛さを思えば、申し上げますようもございません。このような甚大な被害を受けた時であるからこそ、「オール熊本」の精神で、他の医療機関との連携を強め、地域医療の混乱をできるだけ速やかに沈静化させ、復旧・復興に貢献したいと思っております。また、どのような環境においても、本院は、地域医療・災害医療の重要な拠点として、地域にお役に立てる病院であり続けたいと考えております。

不易流行の精神によって、時代の潮流を見極め、その潮流に合わせながらも、熊本大学の伝統である質実剛健で筋の通った医療人、医学研究者が育ち、活躍できる場であり続けたいと祈念します。そのためにも、肥後医育振興会のご支援とご指導を賜りながら、あるべき熊本の医学・医療に向けて精進したいと存じます。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

地域医療の向上と住民の健康増進を図る



熊本市医師会会長 園田 寛

平成八年熊本大学医学部創立百周年を機に肥後医育振興会は設立されました。その年に私は熊杏会理事になり、よくわからないままに百周年記念事業に参加した記憶があります。その縁あって、肥後医育振興会の評議員の末席を汚す事になり、現在に至っております。この六月に熊本市医師会会長を拝命しましたので、このニューズレターで挨拶する機会を得ました。

肥後医育振興会は、細川藩再春館以来の肥後医育の伝統を支えにして、熊本での医学教育や研究を助成し、地域医療の向上と住民の健康増進を図る目的で、平成八年五月に設立された公益法人です。この「熊本での医学教育や研究を助成し、地域医療の向上と住民の健康増進を図る」は、熊本市医師会の目的「医道の高揚、医学及び医師の発達並びに公衆衛生の向上を図り」と同じです。

熊本市医師会は平成十九年十一月に創立百周年を迎えました。百周年記念誌作成時にその歴史を調べましたが、地域に発生した感染症対策を行政と共に行った事が医師会の始まりでした。時代は変わり医学も進歩し疾病構造も変わりましたが、市民の健康増進を行政とともに行うことは今も同じです。医師会の立場で「熊本での医学教育や研究を助成」は難しいのですが、「地域医療の向上と住民の健康増進を図る」には、

これまで同様積極的に肥後医育振興会の活動に協力できると思います。

肥後医育振興会の活動内容はホームページに載っていますので詳細は割愛しますがその目的に沿った素晴らしい活動をされています。ただ、その活動にブレーキをかけているのが会の運営費不足です。熊本市医師会としては医師会員に肥後医育振興会をもっと知って貰い、その活動に賛同するよう広報したいと考えます。

さて、昭和五十四年卒で医師になり三十九年目ですが、この短い期間でさえ、医療体制はかなり変化しました。その最大の原因は超高齢社会と少子化による疾病構造の変化と労働人口の減少です。バブル景気の崩壊以来、税収不足で医療費抑制政策がとられ、地域医療は崩壊しつつあります。更には現在、地域医療構想の名のもとに各医療圏において二〇二五年の適正な病床数の策定が進んでいます。地域医療の崩壊を来すことがないよう現在調整会議が行われていますが、現在よりも厳しくなりそうな気がします。これから更にいばらの道を進むことになりそうですが、その先に明るい未来が待っていることを願っています。

最後になりましたが、肥後医育振興会が益々発展される事を祈念いたします。